

木曾地域の魅力を探る —2009年度木曾町におけるアンケート調査の分析—

鈴木 尚通・葛西 和廣・佐藤 進

Analysis of Attractive Points to Visitors at Kiso District from a Survey in 2009

SUZUKI Naomichi, KASAI Kazuhiro and SATO Susumu

要 旨

2009年度の調査では、従来の木曾福島地区と開田高原に、新たに日義木曾駒高原道の駅を調査地点に加えた。これによって、2008年度調査の2倍強のアンケート票に答えていただくことができた。これらのデータを、長野県、愛知他2県（静岡、岐阜）とその他都道府県に分けて集計した結果を分析する。

キーワード

木曾町 開田高原 観光

目 次

1. 序
2. 調査結果の分析
 - 2-1 来訪者の年齢層
 - 2-2 旅行日程
 - 2-3 現在地における滞留予定時間と旅行相手
 - 2-4 主な交通手段
 - 2-5 権兵衛トンネルの利用度
 - 2-6 現在地への来訪頻度と来訪目的
 - 2-7 情報収集の方法
 - 2-8 木曾地域で楽しんだこと
 - 2-9 求める情報
 - 2-10 気に入っている観光スポット
 - 2-11 旅行予算とお土産代
 - 2-12 木曾路の印象
3. まとめ

1. 序

木曾町における観光客に対するアンケート調査は10月に調査を行うようになってから今回(2009年)で2回目になる。調査地点は、前回の木曾福島地区(山村代官屋敷、足湯、上の段の街並み)と開田高原アイスクリーム工房前に、新たに、観光地への中継点ともいえる国道19号線沿いに位置する日義木曾駒高原道の駅を追加した。調査活動は10月25日(日)の11時頃から15時頃まで、上記3カ所で行った。当日の天候は薄曇りで、調査時間帯の気温は木曾福島地区では13℃台、開田高原では10℃～11℃であった。

アンケートに答えてくださった方は、木曾福島地区では57人(足湯19人、上の段の街並み9人、代官屋敷29人)、開田高原では89人、日義木曾駒高原道の駅では105人、合計251人であった。251人の性別は男性126(50.2%)、女性112(44.6%)、未記入13(5.2%)であった。来訪者の居住県は、長野県71人、愛知県73人、岐阜県23人、静岡県24人、その他(都道府県)59人、無回答1人であった。

長野県からの来訪者71人の中で、居住市町村名を記入された方は、松本市8人、塩尻市5人、伊那市3人、木曾町3人、安曇野市2人、飯田市2人、岡谷市2人、駒ヶ根市2人、飯島町2人、辰野町2人、諏訪市、富士見町、南箕輪村、大桑村、各1人の合計35人であった。その他都道府県60人方は全員居住都道府県を記入されていて、その内訳は、東京都18、神奈川県6、千葉県6、兵庫県5、大阪府4、三重県4、石川県3、群馬県2、富山県2迄が2人以上で、愛知県、山梨県、秋田県、新潟県、福島県、京都府、愛媛県、徳島県、福岡県、長崎県が各1人であった。

以下では251票の回答を、居住地無回答の1票をのぞき、長野県内(71人)、長野県近隣の3県(愛知県73人、静岡県24人、岐阜県23人)(合計120人)とその他都道府県(59人)に分けてクロス集計した結果を主として報告する。

2. 調査結果の分析

来訪者の性別は、長野県では計71人の中で、男性29人(40.8%)、女性37人(52.1%)、未記入5人(7.0%)、愛知他2県では120人中、男性67人(55.8%)、女性47人(39.2%)、未記入6人(5.0%)、その他都道府県59人の内訳は男性30人(50.8%)、女性27人(45.8%)、未記入2人(3.4%)であった。

2-1 来訪者の年齢層

図1に年齢層別の集計結果を示す。来訪者の最も多い年齢層は、長野県では20歳代と50歳代がともに23.9%(17人)、愛知他2県(近隣3県)では60歳代が37.5%(45人)、その他(都道府県)では60歳代が30.5%(18人)であった。県外からの来訪者の方が年齢層があがる傾向にある。50歳以上の来訪者を比較すると、長野県45.1%(32人)、愛知他65.0%(78人)、その他都道府県64.4%(37人)と、愛知他2県、その他都道府県からの来訪者の方が長野県からの来訪者よりも20ポイントも高くなっている。

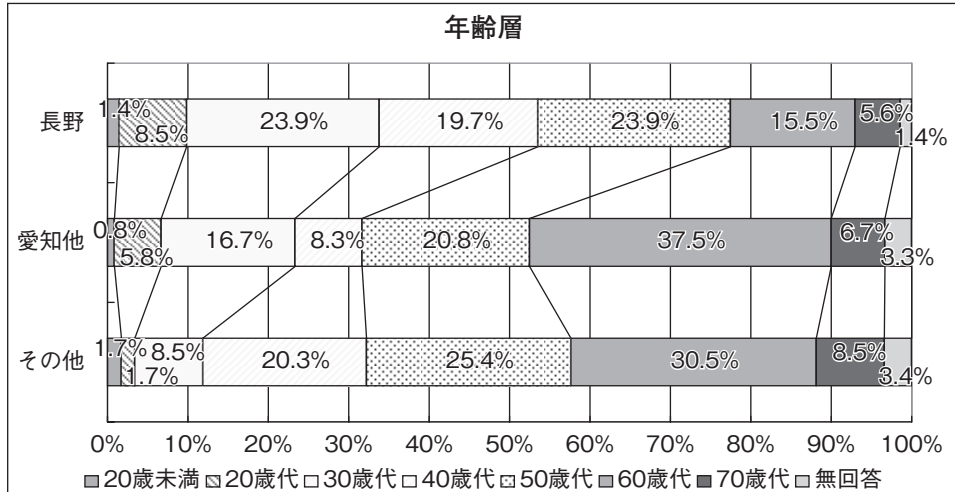


図1. 来訪者の年齢層.

2-2 旅行日程

来訪者の旅行日程を図2に示す。長野県からの来訪者は、日帰り84.5%(60人)、1泊2日9.9%(7人)、2泊3日1.4%(1人)、無回答4.2%(1人)であった。

愛知他2県は、日帰り49.2%(59人)、1泊2日42.5%(51人)、2泊3日6.7%(8人)、3泊4日と4泊5日がいずれも0.8%(1人)と、宿泊を伴う人は50.8%(61人)であった。

その他都道府県からは、日帰り11.9%(7人)、1泊2日64.4%(38人)、2泊3日20.3%(12人)、3泊4日と4泊5日がいずれも1.7%(1人)と2泊3日以上の人が23.7%(14人)を占めている。

長野県から居住地が遠くなるにつれて宿泊をする比率、及び連泊をする比率が高くなっている。

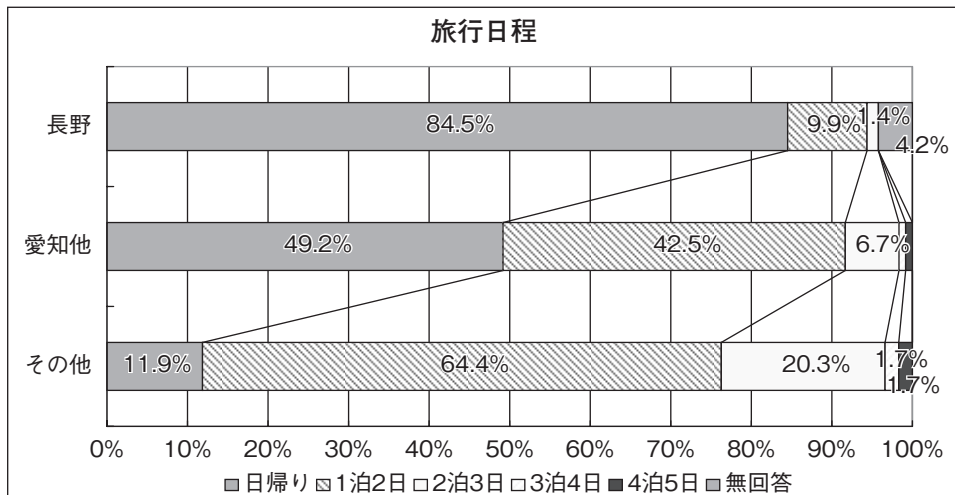


図2. 来訪者の旅行日程.

長野県の方で宿泊を伴う旅行をされている方8人の中で、主な立ち寄り先を記入された方は1泊2日の方2人であった。表中の丸印(○)は調査当日の主な立ち寄り先を表す。2人とも開田高原において調査に協力していただいた。

日程	年齢	1日目	2日目	旅行相手	交通手段
1泊2日	20歳代	日義	○開田高原	家族(大人のみ)	マイカー
1泊2日	30歳代	開田高原	上松	家族(子連れ)	マイカー

表1a. 長野県からの来訪者の主な立ち寄り先

愛知他2県の方で宿泊を伴う旅行をされている方61人の中で、主な立ち寄り先を記入された方は1泊2日の方で26人、2泊3日6人、3泊4日と4泊5日が共に1人、合計34人であった。表1bにその一覧を示す。

日程	年齢	1日目	2日目	3日目	旅行相手	交通手段
1泊2日	50歳代	大滝	アイスクリーム工房		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	60歳代	紅葉 高山	高原		夫婦	マイカー
1泊2日	30歳代	下呂	○開田		夫婦	マイカー
1泊2日	30歳代	御岳	○伊那		カップル	マイカー
1泊2日	50歳代	名古屋	○開田高原		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	60歳代	松本城	奈良井宿		夫婦	マイカー
1泊2日	30歳代	木曾	○開田		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	60歳代	下島			知人友人	バイク
1泊2日	30歳代	下呂	○開田		知人友人	バイク
1泊2日	40歳代	木曾駒高原	○木曾福島		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	30歳代	木曾駒高原	○木曾福島		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	60歳代	赤沢	安曇野		知人友人	マイカー
1泊2日	30歳代	高山ドライブ	乗鞍		家族(大人のみ)	マイカー
1泊2日	50歳代	○婦恋	小布施		家族(大人のみ)	マイカー
1泊2日	60歳代	○乗鞍			夫婦	マイカー
1泊2日	30歳代	木曾村	○木曾川ダム		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	50歳代	諏訪	木曾		知人友人	バイク
1泊2日	40歳代	駒ヶ根ミルク ミュージアム	分抗峠, みはらしファーム		夫婦	マイカー
1泊2日	60歳代	奈良井	紅葉		家族(大人のみ)	マイカー
1泊2日	50歳代	ツマゴ			知人友人	マイカー
1泊2日	50歳代	高山	木曾路		家族(大人のみ)	マイカー
1泊2日	60歳代	赤沢	開田		家族(大人のみ)	マイカー
1泊2日	60歳代	平湯	木曾路		知人友人	マイカー
1泊2日	20歳代	蓼科			家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	30歳代	千畳敷	○恵那市		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	60歳代	北沢峠(伊那)	○赤沢休養林		夫婦	マイカー
2泊3日	30歳代	牧場			家族(子連れ)	マイカー
2泊3日	60歳代	○木曾福島			知人友人	鉄道(JR)
2泊3日	70歳以上	○木曾福島			知人友人	鉄道(JR)
2泊3日	60歳代	?	阿智村 月川		家族(大人のみ)	マイカー
2泊3日		移動	上高地	○開田	家族(大人のみ)	マイカー
2泊3日	50歳代	新穂高	乗鞍		家族(子連れ)	マイカー
3泊4日	60歳代	木曾	木曾	○木曾	夫婦	マイカー
4泊5日	70歳以上	治療, 同窓会	ロープウェイ		夫婦	マイカー

表1b. 愛知他2県からの来訪者の主な立ち寄り先

その他都道府県からの来訪者で、旅行日程を具体的に書いてくださった35人の日程を表1cに示す。

日程	年齢	1日目	2日目	3日目	旅行相手	交通手段
1泊2日		高山	○木曾街道		家族(大人のみ)	マイカー
1泊2日		高山	○木曾街道		家族(大人のみ)	マイカー
1泊2日	40歳代	木曾福島	○開田高原		家族(子連れ)	鉄道(JR), 中央高速バス
1泊2日	40歳代	開田 御岳			夫婦	マイカー
1泊2日	60歳代	木曾			知人友人	鉄道(JR)
1泊2日	50歳代	木曾	○開田高原		夫婦	マイカー
1泊2日	60歳代	開田	○開田高原		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	50歳代	荘川 高山	○開田高原		夫婦	マイカー
1泊2日	60歳代	天竜急流下り	○御岳山		知人友人	マイカー
1泊2日	60歳代	元善光寺	○天竜下り		知人友人	マイカー
1泊2日	40歳代	きのご狩り	○街中		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	50歳代	木曾福島	○		知人友人	鉄道(JR)
1泊2日	50歳代	開田高原	○木曾福島		知人友人	鉄道(JR)
1泊2日	60歳代	○赤倉温泉	赤倉ゴルフ		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	50歳代	御岳ロープウェイ			夫婦	マイカー
1泊2日	70歳代	ロープウェイ	奈良井		夫婦	観光バス
1泊2日	60歳代	木曾			知人友人	マイカー
1泊2日	50歳代	○南アルプス			知人友人	バイク
1泊2日	40歳代	○開田高原			家族(大人のみ)	マイカー
1泊2日	50歳代	伊那	木曾		家族(子連れ)	マイカー
1泊2日	40歳代	高山	○高遠		知人友人	バイク
1泊2日	40歳代	高山			知人友人	バイク
1泊2日	50歳代	木曾			家族(大人のみ)	マイカー
2泊3日	70歳代	高山	高山	○高山	親戚	レンタカー, バス
2泊3日	70歳代	高山	ロープウェイ	○開田高原	家族(大人のみ)	観光バス
2泊3日	60歳代	飛騨高山	飛騨高山	○開田高原	知人友人	マイカー
2泊3日	60歳代	福井	○高山 開田		家族(大人のみ)	マイカー
2泊3日	60歳代	○赤沢森林			夫婦	マイカー
2泊3日	50歳代	移動	○開田 高山		夫婦	マイカー
2泊3日	60歳代	高山	高山	○開田高原	親族	観光バス
2泊3日	70歳代	開田高原、 地蔵峠	紅葉ヶ丘ハイ キングコース		家族(大人のみ)	鉄道(JR)
2泊3日	60歳代	○御岳	昼神温泉		夫婦	マイカー
2泊3日	60歳代	御岳	○開田高原		家族(大人のみ)	マイカー
2泊3日	60歳代	上高地	松本城	乗鞍高原	夫婦	マイカー
4泊5日 以上	60歳代	中山道& 佐久		関ヶ原(4日目)	単独	マイカー

表1c. その他都道府県からの来訪者の主な立ち寄り先

2-3 現在地における滞留予定時間と旅行相手

来訪者の調査地点付近(木曾福島地区、開田高原または日義木曾駒高原道の駅)における滞留(予定)時間を図3に示す。滞留時間が1時間未満の人はどの地域からの来訪者も1/3以

上を占めている。滞留時間が2時間未満の人は、長野県63.4% (45人)、愛知他2県55.8% (110人)、その他都道府県71.2% (42人)であった。

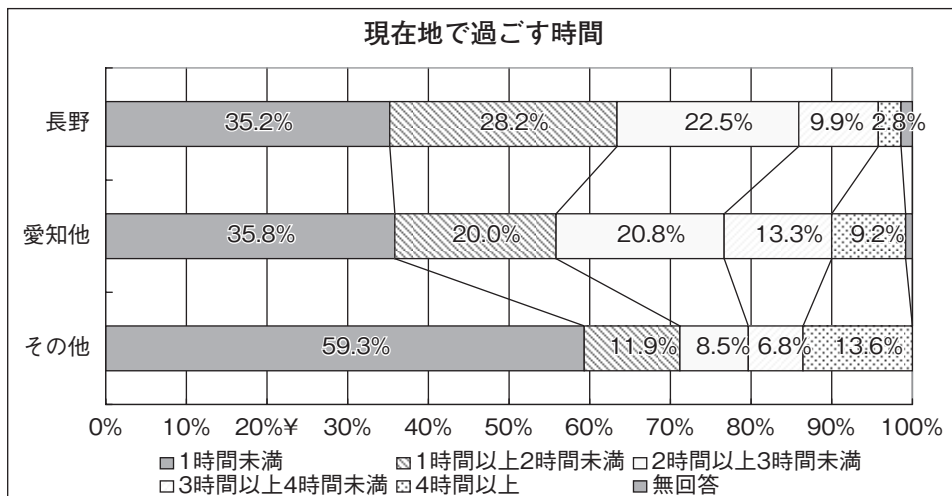


図3. 来訪者の滞留時間.

旅行相手を単純集計した結果は全251人の内、夫婦25.9% (65人)、知人友人24.7% (62人)、家族(子連れ)19.1% (48人)、家族(大人ののみ)16.3% (41人)の順であった。

旅行相手のクロス集計した結果を図4に示す。長野県内からの来訪者の旅行相手は、家族(子連れ)26.8% (19人)、夫婦22.5% (16人)、知人友人21.2% (15人)、家族(大人ののみ)18.3% (13人)の順となっている。愛知他2県からの来訪者の旅行相手は、知人友人26.7% (32人)、夫婦22.5% (30人)、家族(子連れ)17.5% (21人)、家族(大人ののみ)15.8% (19人)、夫婦16.7% (4人)の順で、その他都道府県からの来訪者は夫婦30.5% (18人)、知人友人25.4% (15人)、家族(大人ののみ)15.3% (9人)、家族(子連れ)13.6% (8人)の順となっている。

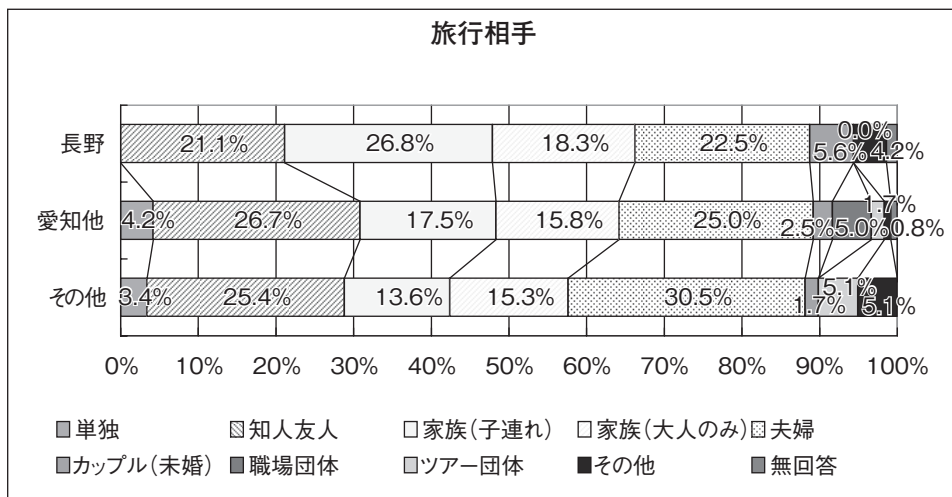


図4. 来訪者の旅行相手.

2-4 主な交通手段

来訪者の主な交通手段を図6に示す。長野県内からは、マイカー 94.4% (67人)、観光バス2.8% (2人)、バイク1.4% (1人)であった。愛知他2県からは、マイカー 65.5% (78人)、鉄道(JR) 15.8% (19人)、バイク9.2% (11人)、その他都道府県からは、マイカー 62.7% (37人)、観光バスと鉄道(JR)がともに11.9% (7人)、バイク10.2% (6人)の順であった。

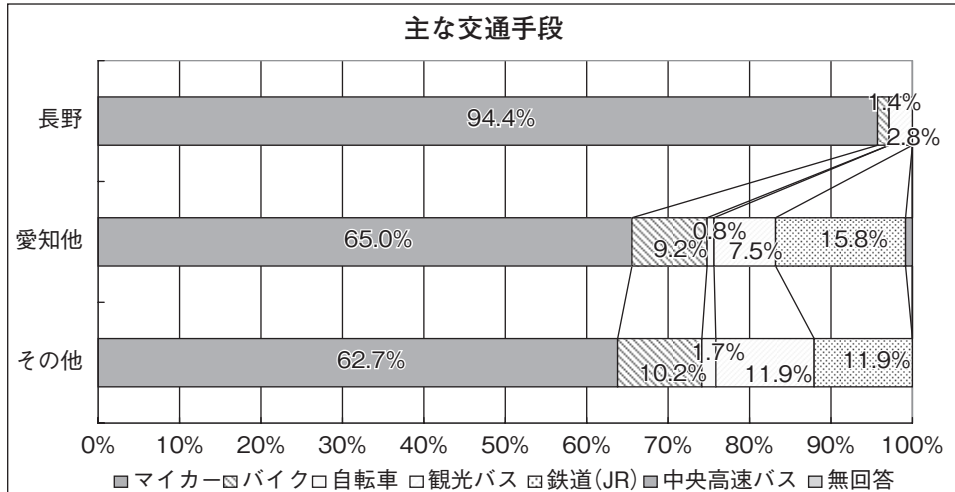


図5. 来訪者の主な交通手段.

2-5 権兵衛トンネルの利用度

権兵衛トンネルを往路に通ってきた人は、長野県の47.9% (34人)、愛知他2県の23.3% (28人)、その他都道府県の32.2% (19人)であった(図6参照)。

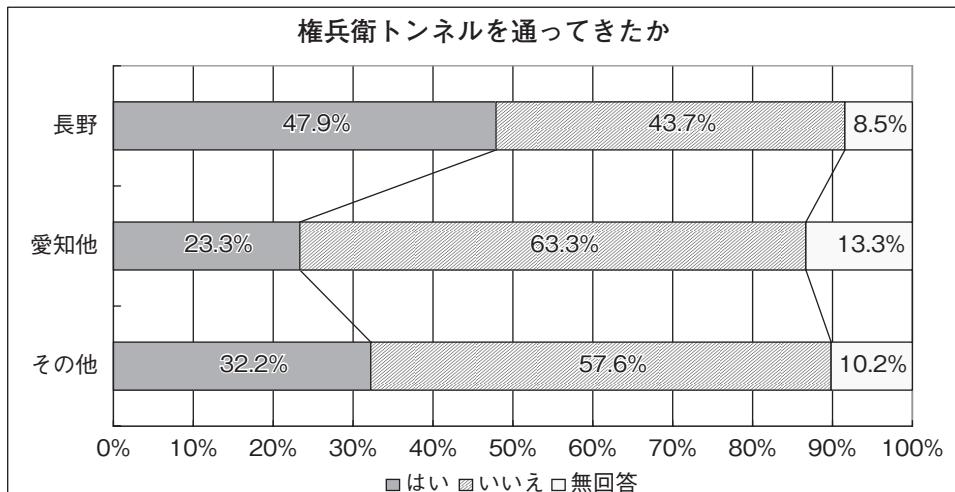


図6. 権兵衛トンネルを通ってきたか.

権兵衛トンネルを帰路に通る予定の人は、長野県26.8% (19人), 愛知他2県18.3% (22人), その他25.4% (15人) (図7参照)となっている。

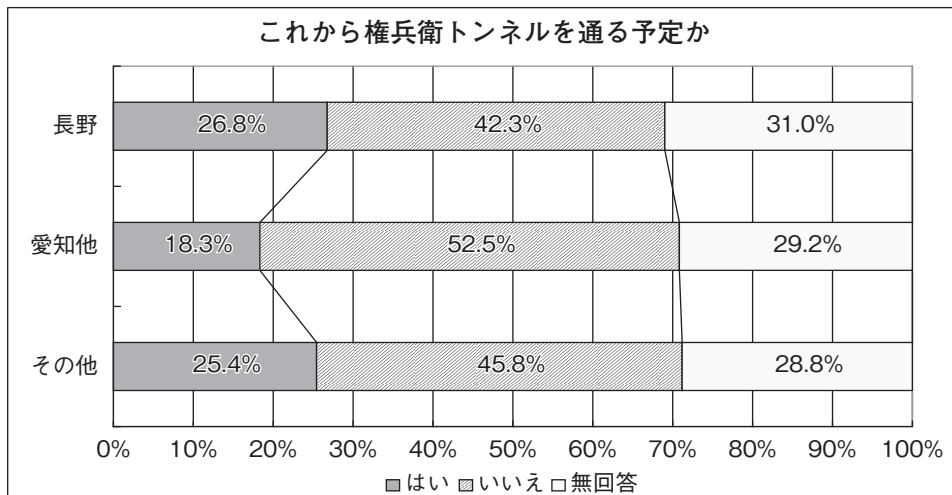


図7. 権兵衛トンネルを通る予定か.

権兵衛トンネルの利用度をより詳細に見るために、居住地毎のクロス集計をした結果を表2a, 表2b, 表2cに示す。①は往路に対する回答, ②は復路に対する回答を表す。例えば, 表2aの上から2行目は、権兵衛トンネルを通過してきた長野県からの来訪者(34人)のうち16人は帰りにも権兵衛トンネルを通る, 3人は通らないと答え, 他の15人は無回答であったことを示す。第3行目は権兵衛トンネルを通らなかった人(31人)のうち3人は帰りに権兵衛トンネルを通る, 27人は通らないと答え, 1人は無回答であったことを示す。第4行は行きも帰りも無回答だった人が6人いることを示す。

	②通る	②通らない	②無回答	計
①通った	16	3	15	34
①通らなかった	3	27	1	31
①無回答	0	0	6	6
計	19	30	22	71

表2a. 長野県からの来訪者の権兵衛トンネルの利用度

	②通る	②通らない	②無回答	計
①通った	2	6	20	28
①通らなかった	13	57	6	76
①無回答	7	0	9	16
計	22	63	35	120

表2b. 愛知他2県からの来訪者の権兵衛トンネルの利用度

	②通る	②通らない	②無回答	計
①通った	5	2	12	19
①通らなかった	7	25	2	34
①無回答	3	0	3	6
計	15	27	17	59

表2c. その他都道府県からの来訪者の権兵衛トンネルの利用度

2-6 現在地への来訪頻度と来訪目的

現在地(木曾福島地区, 開田高原, または日義木曾駒高原道の駅)への来訪回数を図8に示す。長野県内からの来訪者は, 3~5回36.6%(26人), 10回以上28.2%(20人), 2回目14.1%(10人), はじめて11.3%(8人)の順となっている。6回以上のリピーターが35.2%(25人), 2回以下が25.4%(34人)であった。

愛知他2県からの来訪者は, はじめてが36.7%(44人), 10回以上が27.5%(20人), 2回目16.7%(20人), 3~5回11.7%(14人)の順であった。2回以下が53.3%(64人), 6回以上のリピーターも35.0%(42人)を占めている。

その他都道府県からの来訪者は, はじめて42.4%(25人)が最も多く, 3~5回が20.3%(12人), 10回以上18.6%(11人), 2回目15.3%(9人)がそれに続いている。2回以下が57.6%(34人), 6回以上のリピーターは22.0%(13人)を占めている。2回以下(およびはじめて)の来訪者の比率は, その他都道府県が最も高くなっている。

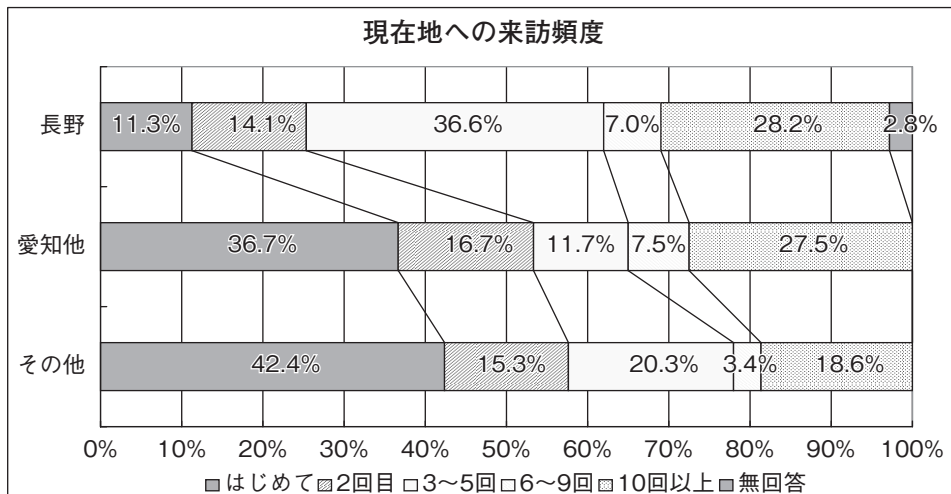


図8. 木曾福島地区への来訪回数.

現在地(木曾福島地区または開田高原)を訪れた目的(3つまで選択)は, 単純集計では, 紅葉狩り(134人, 53.6%), 飲食(66人, 26.4%), 温泉(足湯)(56人, 22.4%), その他(40人, 16.0%), おみやげ(39人, 15.6%)の順であった。

居住地域別(図9参照)に見ると, 長野県からの来訪者の目的は, 紅葉狩り49.3%(35人), 飲食31.0%(22人), おみやげ22.5%(16人), その他21.1%(15人), 温泉(足湯)16.9%(7人), 木曾駒の里7.0%(5人)の順であった。その他に対する記述(13人)は, 赤沢自然休養林(3

人), コンサート(2人), 開田高原, 木曾が好きだから, こどものお稽古事の発表会, 乗馬, 新そばを食べに, そば打ち, ツーリング, 釣り各1人であった。

愛知他2県は, 紅葉狩り55.8%(67人), 飲食29.2%(35人), 温泉(足湯)25.0%(30人), おみやげ13.3%(16人), 山村代官屋敷とその他がともに12.5%(15人)であった。その他に対する記述(11)は, 興禅寺2, ツーリング2, ドライブ2, 観光, 木曾馬, スタンプラリー, 通過地, レジャー各1であった。

その他都府県は, 紅葉狩り54.2%(32人), 温泉(足湯)23.7%(14人), その他16.9%(10人), おみやげ11.9%(7人), 上の段の街並み10.2%(6人)であった。その他に対する記述(8人)は, 御嶽, 中山道ウォーキング, 奈良井宿, スケッチ, 観光, 研究, 帰り道, トイレであった。

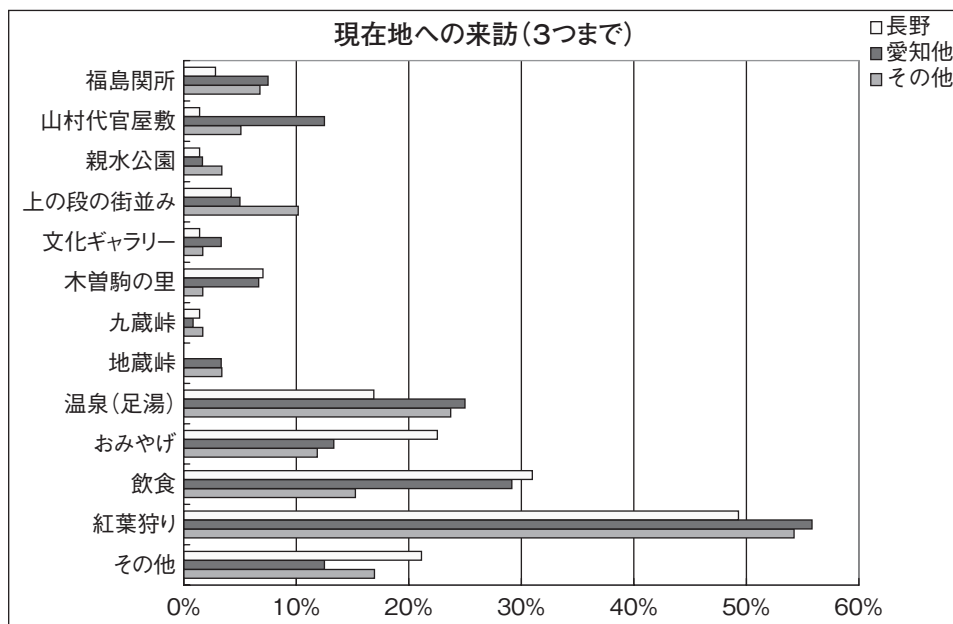


図9. 木曾福島地区を来訪した目的。

2-7 情報収集の方法

現在地(木曾福島地区または開田高原)に関する情報収集手段(3つまで選択)は, 単純集計では以前に来た(74人, 29.6%), 観光パンフレット(43人, 17.2%), ガイドブック(37人, 14.8%), 口コミ(30人, 12.0%), インターネット(24人, 9.6%), ここではじめて(22人, 8.8%)の順であった。

居住地域別の集計結果を図10に示す。長野県内からの来訪者は, 以前に来た36.6%(26人), 口コミ12.7%(9人), 沿道の看板とその他がともに11.3%(8人), 観光パンフレットとガイドブックがともに9.9%(7人)インターネット8.5%(6人)の順であった。

愛知他2県は, 以前に来たとガイドブックがともに23.7%(14人), 観光パンフレット22.0%(13人), ガイドブック13.3%(16人), その他10.0%(12人), 口コミとここではじめてがともに9.2%(11人), インターネット8.3%(10人)の順であった。

その他都府県は, 以前に来たとガイドブックがともに23.7%(14人), 観光パンフレット

22.0% (13人), 口コミ16.9% (10人), インターネット13.6% (8人), ここではじめて10.2% (6人)の順であった。

情報収集の手段として、長野県、愛知他2県、その他都道府県のどの居住地域から来訪された方も、「以前に来た」が第1位になっているが、長野県の比率が最も高い。

「観光パンフレット」が第2位、「ガイドブック」が第3位となっているが、比率は、いずれの手段もその他からの来訪者が最も高く、続いて愛知他2県、長野県の順になっている。立ち寄ったお店に木曽福島地区などのパンフレットが置いてあることが役立っているかもしれない。

「口コミ」、「インターネット」がそれらに続く、情報手段の方法となっているが、その他の比率が最も高い。季節の変わり目などには早めに行事やその季節の特産物等の情報をホームページで紹介すると、その他からの来訪者にはありがたいかもしれない。

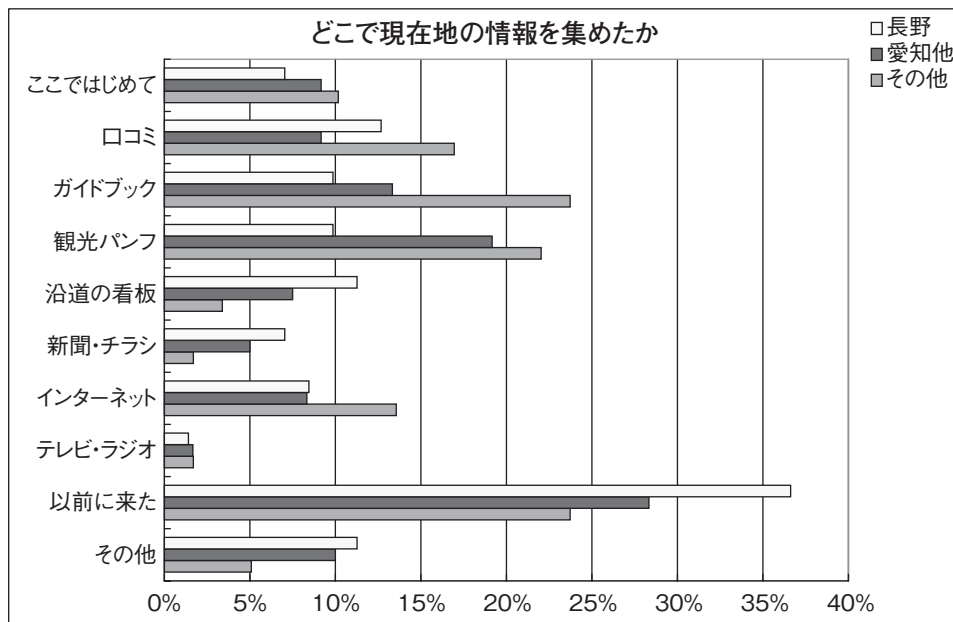


図10. 木曽福島地区の情報収集手段。

2-8 木曽地域で楽しんだこと

この地域で有料で楽しんだこと(3つまで選択)に対する単純集計の結果は、計250人中、飲食(85人, 34.0%), 特産品の購買(70人, 28.0%), 温泉(58人, 23.2%), 博物・資料館(28人, 11.2%), 宿泊施設(24人, 9.6%)の順であった。

居住地域別の集計結果を図11に示す。長野県内からの来訪者は、飲食43.7%(31人)、特産品の購買39.4%(28人)、温泉12.7%(9人)、博物・資料館7.0%(5人)で楽しんだことになる。愛知他2県からの来訪者は、飲食30.8%(37人)、温泉23.3%(28人)、特産品の購買22.5%(27人)、博物・資料館13.3%(16人)の順であった。その他都道府県からの来訪者は、温泉35.6%(21人)、飲食28.8%(17人)、特産品の購買25.4%(15人)、宿泊施設20.3%(12人)、博物・資料館11.9%(7人)などで楽しんでいる。

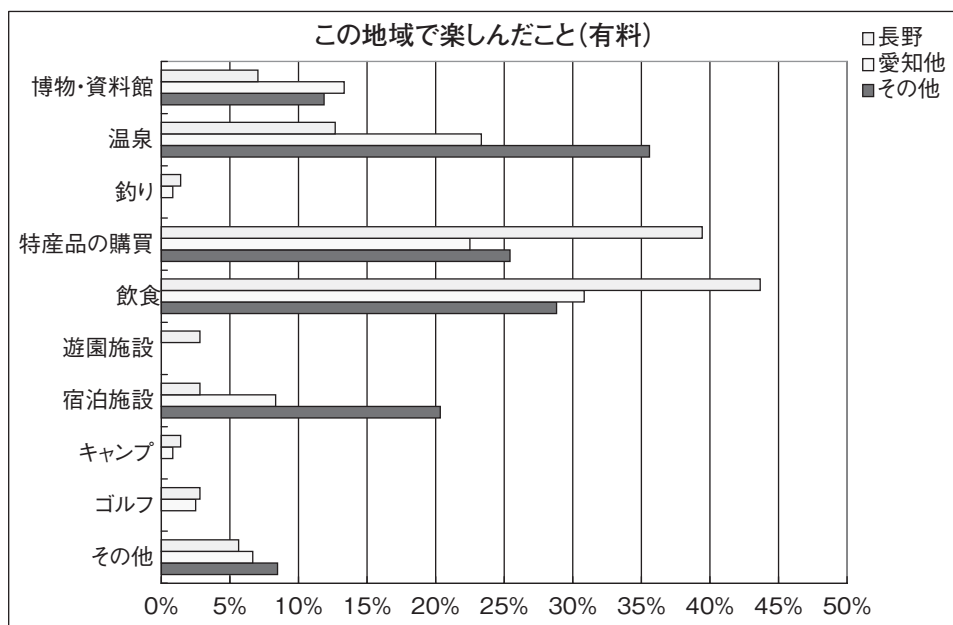


図11. この地域で有料で楽しんだこと.

この地域で無料で楽しんだこと(3つまで選択)は、単純集計では、自然の風景(137人、54.8%)が断然トップで、それにドライブ(58人、23.2%)、街歩き(34人、13.6%)、写真撮影(32人、12.8%)、名所旧跡(30人、12.8%)が続いている。

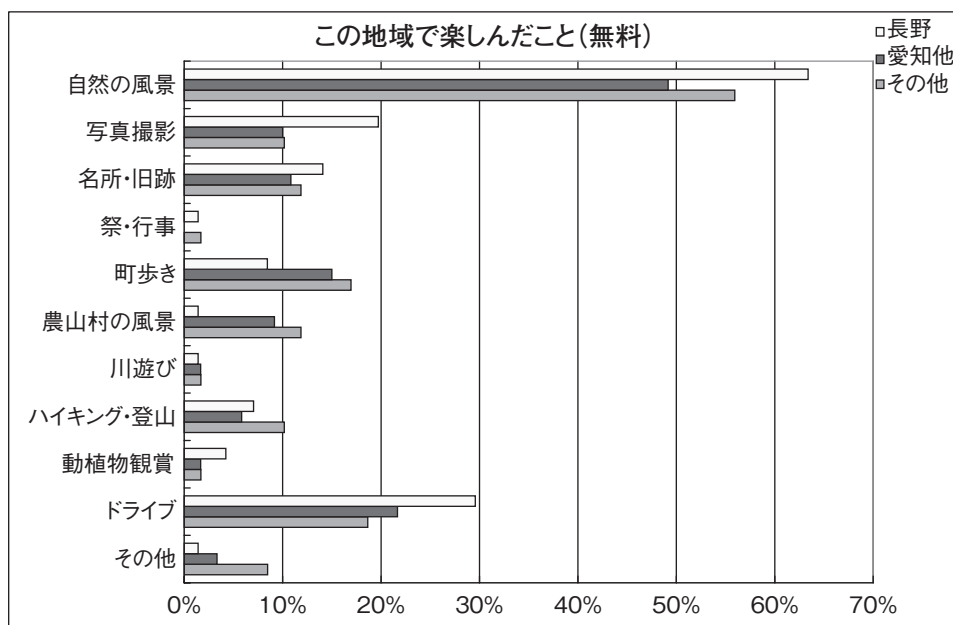


図12. この地域で無料で楽しんだこと.

居住地域別の集計(図12参照)では、長野県からの来訪者は、自然の風景63.4%(45人)、ドライブ29.6%(21人)、写真撮影19.7%(14人)、名所・旧跡14.1%(10人)、街歩き8.5%(6人)、ハイキング・登山7.0%(5人)の順になっている。愛知他2県からの来訪者は、自然の風景49.2%(59人)、ドライブ21.7%(26人)、街歩き15.0%(18人)、名所・旧跡10.8%(13人)、写真撮影10.0%(12人)の順であった。その他都府県からの来訪者は、自然の風景55.9%(33人)、ドライブ18.6%(11人)、街歩き16.9%(10人)、名所・旧跡11.9%(7人)、写真撮影10.2%(6人)の順となっている。どの地域に居住されている方も「自然の風景」を第1位に、「ドライブ」を第2位にあげている。

2-9 求める情報

この地域に関するほしい情報を単純集計した結果は、食事の楽しめる場所(97人、38.8%)、温泉施設(83人、33.2%)、自然にふれあえる場所(69人、27.6%)、季節のイベントや催し(55人、22.0%)、ドライブコース・道路と農産物直売所がともに(53人、21.2%)の順であった。

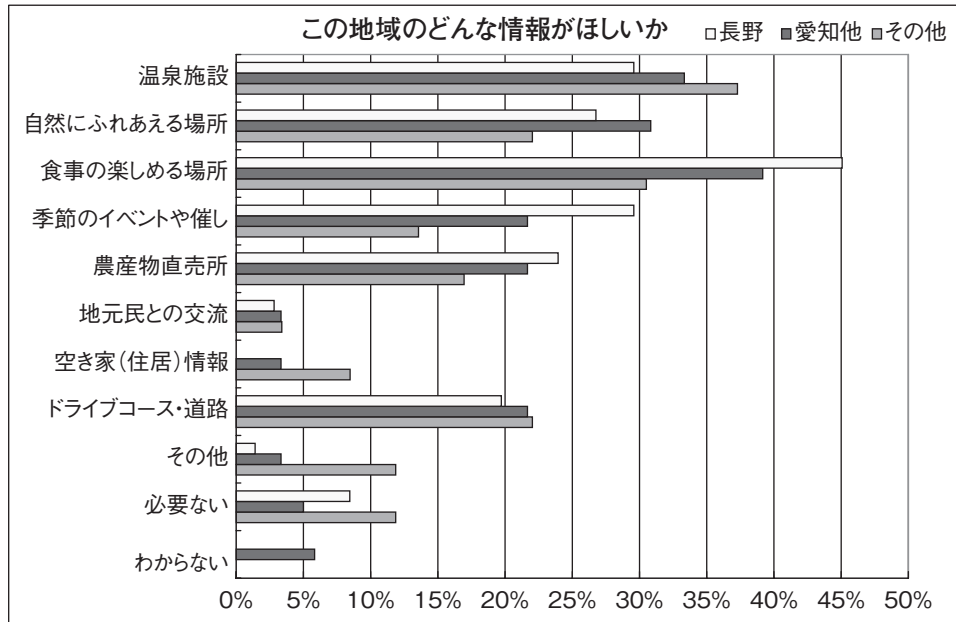


図13. この地域に関するほしい情報.

居住地域別に見ると、図13に示すように長野県内からの来訪者は主に、食事の楽しめる場所45.1%(32人)、季節のイベントや催しと温泉施設がともに29.6%(21人)、自然にふれあえる場所26.8%(19人)、農産物直売所23.9%(17人)、ドライブコース・道路19.2%(14人)をあげている。

愛知他2県は、食事の楽しめる場所39.2%(47人)、温泉施設33.3%(40人)、自然にふれあえる場所30.8%(37人)、ドライブコース・道路、農産物直売所、季節のイベントや催しがともに21.7%(26人)の順であった。

その他都府県は、温泉施設37.3% (22人)、食事の楽しめる場所30.5% (18人)、ドライブコース・道路と自然にふれあえる場所がいずれも21.7% (13人)、農産物直売所16.9% (10人)、季節のイベントや催し13.6% (8人)の順であった。

居住地域によって、多少順番は異なるが、単純集計の上位6項目「食事の楽しめる場所」、「温泉施設」、「自然にふれあえる場所」、「季節のイベントや催し」、「ドライブコース・道路」、「農産物直売所」がどの地域の方も求めている情報ということになる。

2-10 気に入っている観光スポット

この地域付近で行ったことがあり、気に入っている場所に対する集計結果を図14から図16に示す。

国道361号線沿いにある観光スポット(3つまで選択)に関して単純集計した結果は、開田高原(118人, 47.2%)、アイスクリーム工房(開田高原)(77人, 30.8%)、木曾馬の里(46人, 18.4%)、やまゆり荘(35人, 14.0%)、きそふくしまスキー場(27人, 10.8%)、九蔵峠展望台(26人, 10.4%)の順であった。

居住地域別に集計した結果を図14に示す。長野県内からの来訪者は、開田高原33.3% (8人)、アイスクリーム工房37.5% (9人)、木曾馬の里28.2% (46人)、やまゆり荘18.3% (13人)、きそふくしまスキー場10.8% (27人)、九蔵峠展望台9.9% (7人)の順となっている。愛知他2県は、開田高原46.7% (56人)、アイスクリーム工房30.0% (36人)、やまゆり荘15.0% (18人)、きそふくしまスキー場14.2% (17人)、木曾馬の里12.5% (15人)、九蔵峠展望台9.9% (12人)となっている。その他都府県は、開田高原50.8% (30人)、アイスクリーム工房(開田高原)20.3% (12人)、木曾馬の里18.6% (11人)、九蔵峠展望台11.9% (7人)であった。

愛知他2県およびその他都道府県からの来訪者がもっとも気に入っている場所は開田高原であった。長野県内からの来訪者にとっても開田高原にある木曾馬の里やアイスクリーム工房を含めると、開田高原は魅力ある観光スポットといえるであろう。やまゆり荘は長野県、愛知他2県からの来訪者に日帰り型温泉施設として知られている(利用されている)ようだ。また、きそふくしまスキー場は、愛知他2県の居住者に知られていることがわかる。

この問に対しては、長野県居住者は平均すると1.8個、愛知他2県は1.5個、その他県外は1.3個の項目を選んでいく。

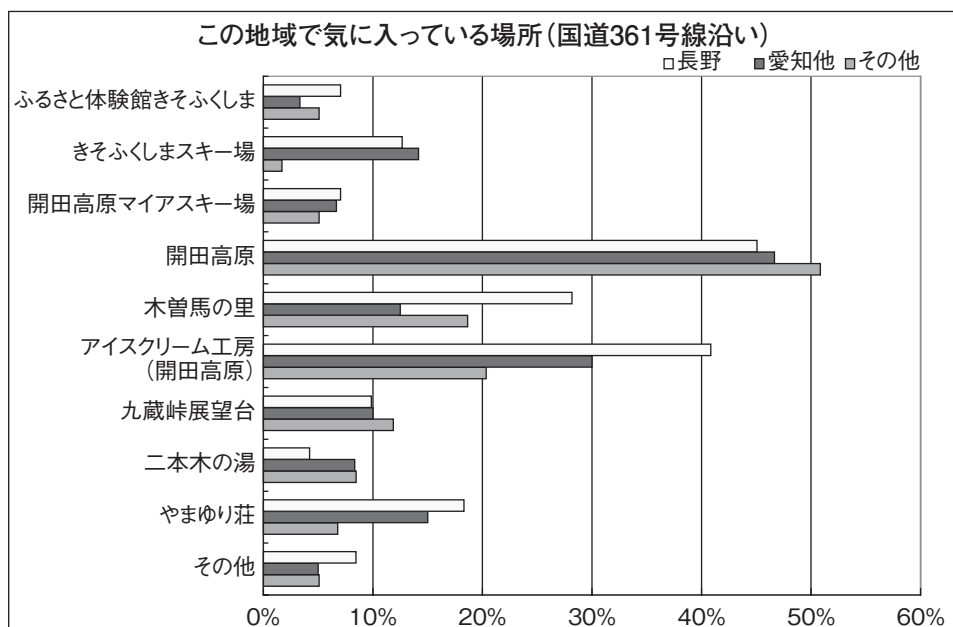


図14. 行ったことがあり、気に入っている場所(国道361号線沿い).

国道19号線沿いの観光スポット(5つまで選択)に関して単純集計した結果は、妻籠宿(127人, 50.8%), 馬籠宿(117人, 46.8%), 奈良井宿(114人, 45.6%), 寝覚めの床(67人, 26.8%), 赤沢自然休養林(40人, 16.0%), 木曾駒高原(39人, 15.6%)の順で、旧宿場町3カ所と寝覚めの床が上位4位までを占めている。

長野県内からの来訪者は、奈良井宿47.9%(34人)、妻籠宿40.8%(29人)、馬籠宿33.8%(24人)、寝覚めの床32.4%(23人)、木曾くらしの工芸館21.1%(15人)、赤沢自然休養林16.9%(12人)、義仲館14.1%(10人)の順であった。愛知他2県は、馬籠宿57.5%(69人)、妻籠宿55.0%(66人)、奈良井宿39.2%(47人)、寝覚めの床25.8%(31人)、赤沢自然休養林21.7%(26人)、木曾駒高原13.3%(16人)、日義木曾駒高原道の駅12.5%(15人)となっている。その他都道府県は、奈良井宿55.9%(33人)、妻籠宿49.2%(29人)、馬籠宿45.8%(27人)、木曾駒高原25.4%(15人)、寝覚めの床22.0%(13人)、日義木曾駒高原道の駅20.3%(12人)の順であった。

国道19号線沿いの観光スポットは、県内居住者は平均2.9項目、愛知県他2県は3.1項目、その他都道府県は2.7項目選んでいる。

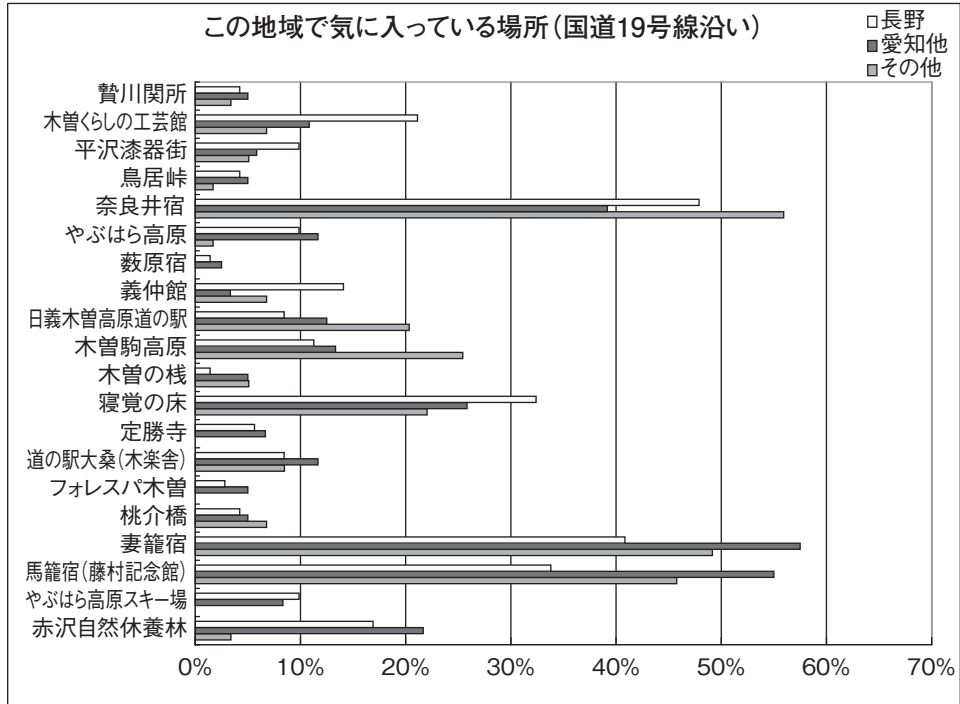


図15. 行ったことがあり、気に入っている場所(国道19号線沿い).

その他の観光スポット(3つまで選択)の単純集計では、御嶽山(85人, 34.0%), 御岳ロープウェイ(68人, 27.2%), 木曾駒ヶ岳(49人, 19.6%), おんたけスキー場(28人, 11.2%)の順となっている。

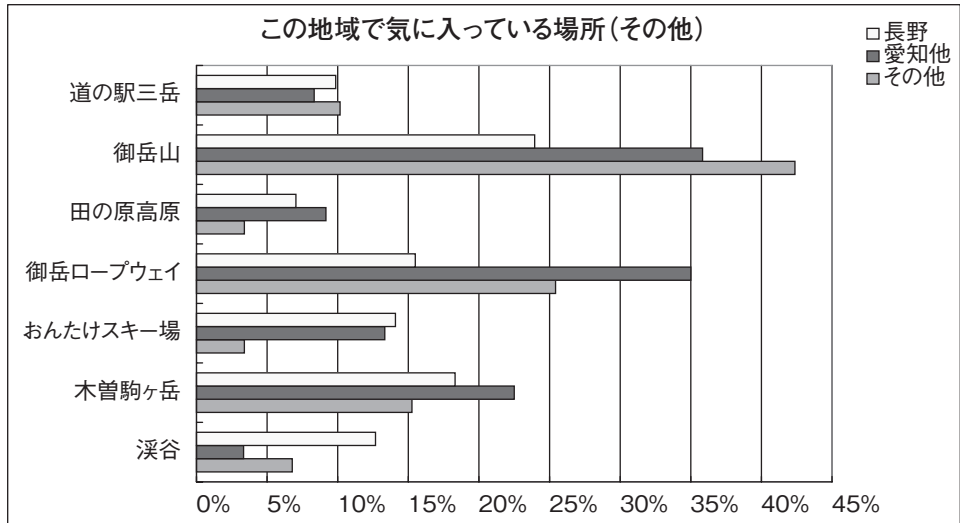


図16. 行ったことがあり、気に入っている場所(その他).

居住地別にクロス集計した結果は、長野県は御嶽山23.9% (17人)、木曾駒ヶ岳18.3% (13人)、御岳ロープウェイ15.5% (11人)、おんたけスキー場14.1% (10人)、溪谷12.7% (9人)が10%を超えている。愛知他2県は御嶽山35.8% (43人)、御岳ロープウェイ35.0% (42人)、木曾駒ヶ岳22.5% (27人)、おんたけスキー場13.3% (16人)の順となっている。その他都道府県は、御嶽山42.4% (25人)、御岳ロープウェイ25.4% (15人)、木曾駒ヶ岳15.3% (9人)、道の駅三岳10.2% (6人)の順となっている。

2-11 旅行予算とお土産代

旅費と宿泊費を除く旅行の1人当たりの予算を図17に示す。図2からわかるように、長野県内からの来訪者、愛知他2県からの来訪者、その他都道府県からの来訪者の順に宿泊を伴う割合が高くなっている。さらに、その他都道府県の方が愛知他2県よりも連泊する比率が高い。これらの旅行日程を反映して、長野県内、愛知他2県、その他都道府県の順に旅行予算が増加している。

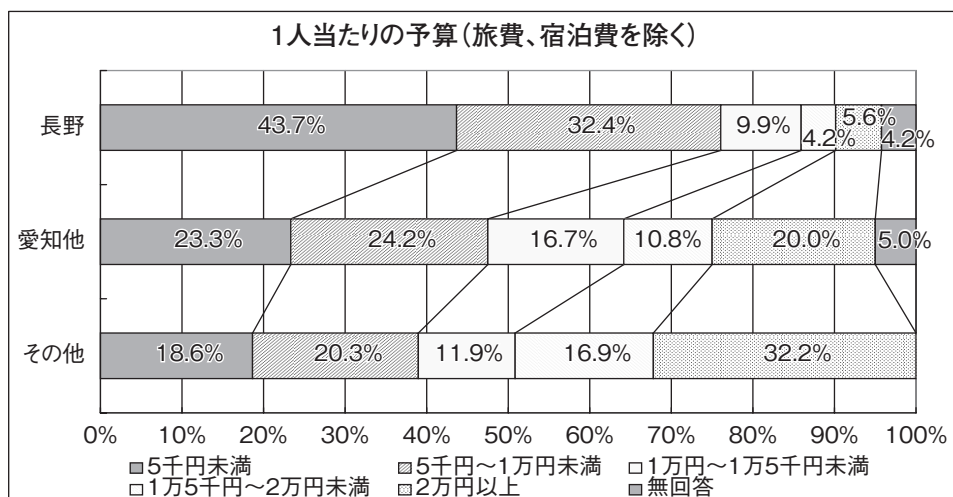


図17. 旅費、宿泊費を除いた旅行の予算。

旅費と宿泊費を除く旅行の1人当たりの予算の中に含まれる、自分へのお土産代の集計結果を図18に示す。長野県内からの来訪者は、2千円未満59.2% (42人)、2千円以上4千円未満23.9% (17人)と4千円未満が83.1%を占めている。

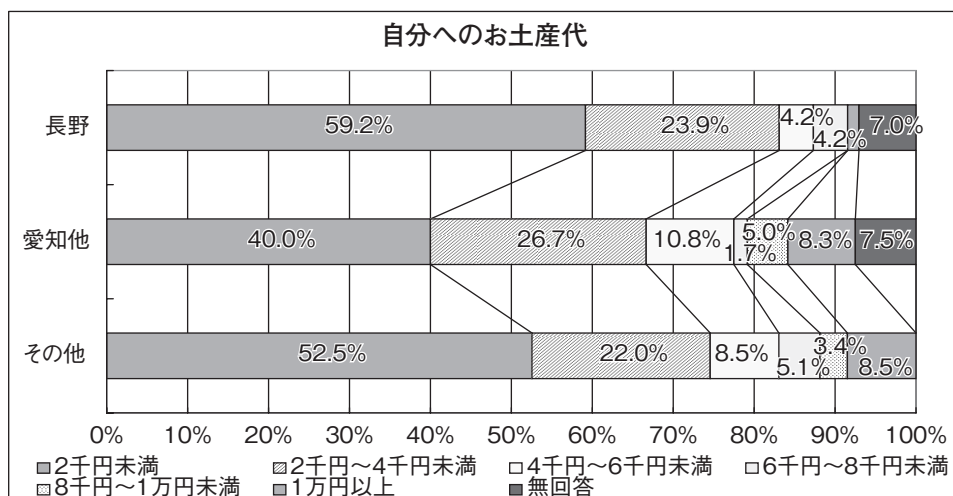


図18. 自分へのお土産代.

愛知他2県からの来訪者は、2千円未満40.0% (48人)、2千円以上4千円未満26.7% (32人)と4千円未満が66.7%を占め、4千円以上は25.8% (31人)であった。その他都道府県からの来訪者は、2千円未満52.5% (31人)、2千円以上4千円未満22.0% (13人)と4千円未満が75.6%を占め、4千円以上は25.4% (15人)であった。長野県外からの来訪者の方が県内からの来訪者よりも自分へのお土産代は若干多いようだ。

自分へのお土産に何を買ったかの問いに対して、記入していただいた主な品目を表3にあげる。

長野		愛知他2県		その他	
品目	度数	品目	度数	品目	度数
蕎麦	4	蕎麦	6	蕎麦	5
かぶ(赤かぶ1を含む)	3	野菜	5	栗子餅	3
アイス	2	りんご	5	漬物	3
きのこ	2	お菓子	4	饅頭	3
酒	2	栗子餅	3	酒	2
食品	2	饅頭	3	りんご	2
野菜	2	酒	2	お菓子	1
果物	1	漬物	2	キーホルダー	1
くりきんとん	1	ヨーグルト	2	きのこ	1
五平餅	1	赤かぶ	1	果物	1
箸	1	うるし	1	ゴーフレット	1

表3. 自分用のお土産として購入したもの

2-12 木曽路の印象

木曽路の印象を図19に示す。よい印象を持った人は、長野県、愛知他2県、その他都道府県のいずれも80ポイントを超えている。

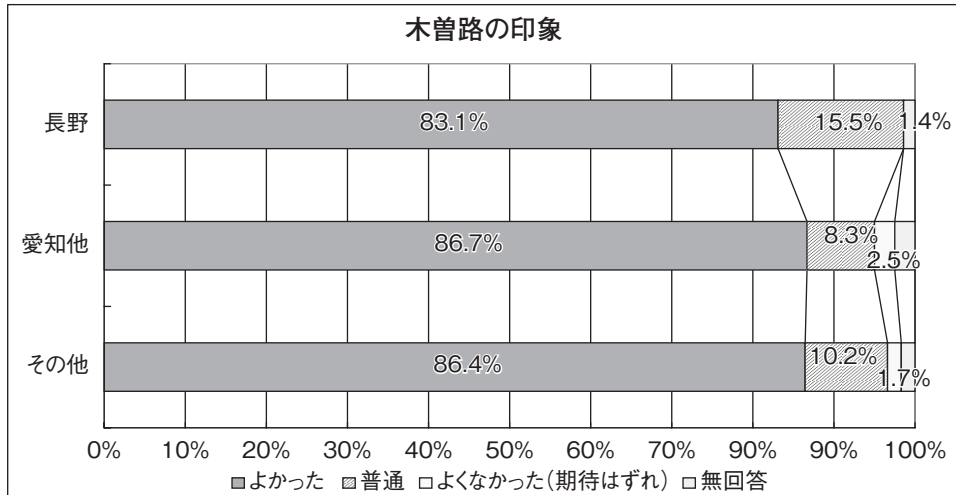


図19. 木曽路の印象.

木曽町(木曽福島、開田高原またはに慶木曽駒高原道の駅)にまた来たいかという問いに関する集計結果を図20に示す。どの居住地域からの来訪者も、是非来たいと機会があれば来たいを合計すると90%を超え、木曽地区には好印象を持っていることがわかる。

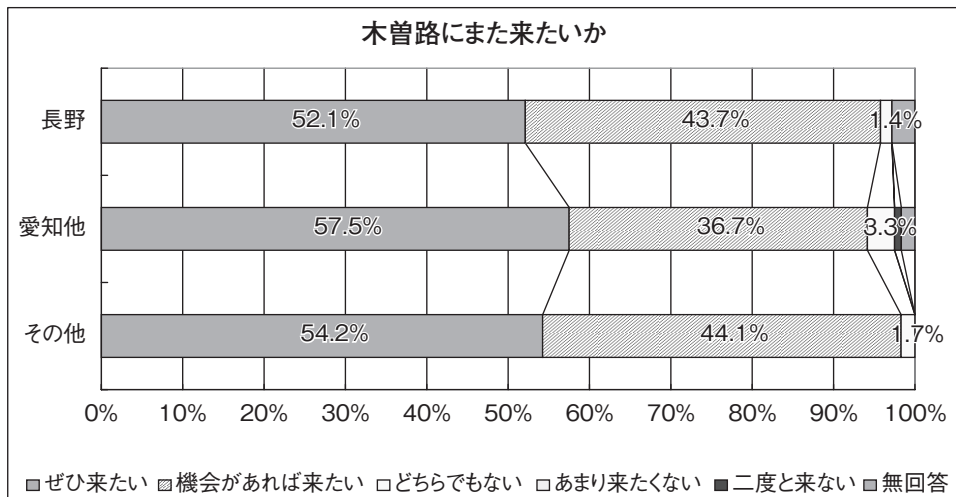


図20. 木曽路にまた来たいか.

3. まとめ

木曾福島地区、開田高原または日義木曾駒高原道の駅を来訪した方に対して2009年10月25日(日)に行ったアンケート調査の結果を、長野県、愛知他2県(愛知、静岡、岐阜)、その他都道府県からの来訪者の3つの居住地域に分けて集計・分析した。

2009年の調査では、居住地別集計で50歳以上の割合は、長野県(71人中)は45.1%(32人)、愛知他2県(120人中)は65.0%(78人)、その他都道府県(59人中)は64.4%(38人)と、県外からの来訪者の方が長野県内からの来訪者よりも20ポイント前後大きい。一方、30歳代以下で比較すると、長野県は38.0%(34人/71人)、愛知他2県は23.3%(28人/120人)、その他都道府県は11.9%(7人/59人)と、長野県から遠くなるほど割合が低くなっている。

宿泊を伴う旅行をされている方の主な立ち寄り先を記入していただくようになっているが、長野県からの来訪者は30歳以下の方2人が、愛知他2県からの来訪者は20歳代から70歳以上まで計34人の方が、その他都道府県からの来訪者は40歳代から60歳代まで計35人の方が記入してくださった。観光客の行動範囲の広さが窺える(表1a、1b、1c参照)。

今回(2009年度)の調査では、来訪回数が6回以上の方は、長野県35.2%(25人)、愛知他2県35.2%(42人)、その他都道府県22.0%(13人)であった。6回以上のリピーターは長野県と愛知他2県は同率で、その他都道府県よりも13ポイント高い。また、初めて来訪した方は、長野県11.3%(8人)(2回目以下25.4%(18人))、愛知他2県36.7%(44人)(2回目以下53.3%(64人))、その他都道府県42.4%(25人)(2回目以下57.6%(34人))であった。2回目以下の来訪者の比率はその他都道府県と愛知他2県が50ポイントを超え、長野県に25ポイント以上の差をつけている。

木曾福島地区を来訪された方の当地に関する情報入手方法は、「以前に来た」、「観光パンフレット」、「ガイドブック」、「口コミ」、「インターネット」の順になっている。季節季節の変わり目に、催しもの情報、季節のお菓子や特産物などの情報を観光パンフレットやホームページで紹介することも旅心をそそることに役立っているかもしれない。

この地域でほしい情報は、「食事の楽しめる場所」、「温泉施設」、「自然にふれあえる場所」、「季節のイベントや催し」、「ドライブコース・道路」、「農産物直売所」の順となっている。これらの情報を得るために、観光パンフレットやインターネットが重要な手段となっていることが窺える。

お気に入りの場所に関する今回の調査では、国道361号線沿い(3つまで選択)では、上位から、「開田高原」、「アイスクリーム工房(開田高原)」、「木曾馬の里」、「やまゆり荘」があがっている。上位4位まではいずれも開田高原に位置する観光スポットが占めている。

国道19号線沿い(5つまで選択)では、「妻籠宿」、「馬籠宿」、「奈良井宿」、「寝覚めの床」、「赤沢自然休養林」の順となり、木曾路の3つの宿場町、寝覚めの床、それに自然にふれあえる赤沢自然休養林が上位を占めている。

その他のお気に入りの場所は、「御嶽山」、「御岳ロープウェイ」、「木曾駒ヶ岳」、「おんたけスキー場」の順となっている。

木曾地域で有料で楽しんだことは(250人中)、「飲食」(85人、34.0%)、「特産品の購買」(70人、28.0%)、「温泉」(58人、23.2%)、「博物・資料館」(28人、11.2%)の順であった。無料で楽しんだことは、「自然の風景」(137人、54.8%)、「ドライブ」(58人、23.2%)、「街

歩き」(34人, 13.6%), 「写真撮影」(32人, 12.8%), 「名所旧跡」(32人, 12.8%)の順であった。

この調査に参加した学生は、当時松本大学総合経営学部4年生4名(小岩井彩花, 堀井理穂, 三澤知枝, 山崎里美), 3年生4名(小林貴之, 清水雄介, 土橋一也, 手塚秀人), 2年生8名(安藤寿紀, 磯田寛樹, 奥原由香, 鈴木陽一, 滝沢竜童, 日詰友樹, 百瀬貴文, 山下斐)であった。

この調査内容の一部は、2010年5月27日(木)木曾町郡民会館において開催された木曾町観光総会終了後に、学生(安藤, 山下, 鈴木, 奥原)によって発表された。その際、参加者の方から、「伊那谷から権兵衛トンネルを通過して木曾にきた人たちはどこに向かうのか」、「木曾の食材に対して観光客はどんなイメージを持っているか調査できないか」等重要な質問/コメントを頂いた。これらのご意見に対しては2010年度の調査で少しでも答えられるようにしたい。

謝辞

この調査及び学生による発表会を行う際に木曾町企画財政課まちづくり係の方々に協力をして頂いた。この場を借りて感謝いたします。

また、同僚の田中正敏氏には、アンケート調査に同行していただき、山村代官屋敷を中心に学生の監督をしていただいた。そのおかげで、従来の調査地点に加えて、新たに日義木曾駒高原道の駅においても調査をすることができた。同氏の協力に感謝の意を表したい。